

Dialog



Vol. 162

世田谷区民合唱団会報

2023-2
2023.5.31

2023年（令和5年度）新役員

第34回世田谷区民合唱団定期総会が令和5年4月26日玉川せせらぎホールにて開催され、全ての議案が承認されました。今年度選出された役員の皆様です。



運営委員長	神保 仁士	(B)	(重任)
運営副委員長	児玉 慶子	(A)	(重任)
運営副委員長	末永 祐一	(T)	(新任)
書記	稲田 由美子	(S)	(重任)
書記	森川 倡子	(A)	(留任)
会計	村松 美江	(S)	(新任)
会計	藤波 明平	(B)	(新任)
会計監査	富田 陽子	(S)	(留任)
会計監査	安川 喜久夫	(B)	(留任)
演奏委員長	菊地 順子	(S)	(重任)
地区委員長	溝口 佳美	(B)	(新任)
広報委員長	三留 修平	(B)	(新任)
コミュニケーション委員長			
	柴田 巳奈子	(A)	(重任)

※今年度は名簿改正のため所属パート名のみを表示とさせていただきます。

今年度運営委員のご挨拶

運営委員長 B 神保 仁士



三回目の「皆さんお久しぶりです」との挨拶を発することにはなりませんでした。これに限っては、二度あることは三度はありませんでした。今後もそれを願っています。昨年の新役員挨拶の冒頭の言葉を繰り返さずに済みました。

活動再開後に皆様の努力とご協力により活動が継続され、年間を通しての定期練習の実施と、そして定期演奏会と名曲コンサートを復活させることが叶いました。団員の皆様、並びにご尽力を惜しまなかった昨年度役員の方々、世田谷区の関係で何かと助言を頂いた皆様方にごこの場をお借りして御礼申し上げます。

皆さんが乗っている合唱団という乗り物が、1年間の旅路で辿り着いた場所は如何でしたか。目的地に近い場所でしたでしょうか、反対側ですか？望んだ以上に素晴らしい場所でしたか？どのような状況にあってもこの乗り物は歩みを止めることはありません。自分の意思に反してこの乗り物から降りざるを得ない方も大勢いました。今は其の方々の思いと、新しく参加された皆様と共に、希望の未来を沢山乗せて進んで行きたいです。

たどり着く先が思い描いている目的地に少しでも近づけるように皆様と共に歩んで行きたいと思えます。

運営副委員長 A 児玉 慶子



副委員長をもう一年務めさせていただきます児玉です。コロナで練習休止状態からやっと抜け出し丸一年練習が続けられました。

まだまだ油断は、許されませんが、with コロナでこのまま練習が続くことを願っています。

今まで当たり前のように行われていた事が突然できなくなることによって皆さんも色々ご苦労なされたことと思えますが、いつでもどこでも皆さまの協力のもと乗り越えられることを感じた昨年でした。今年度もご協力お願い申し上げます。

運営副委員長 T 末永 裕一



新年度役員としての抱負、自己紹介

副運営委員長を務めさせていただく末永裕一です。

昨年入団し、まだ未経験なことも多いですが、世田谷区を代表する合唱団として、音楽の文化振興の一端を担える様、微力ながら団の円滑な運営 に努めて参りますので、皆様のご協力とご支援を宜しくお願い致します。

会社勤めの現役時代にはカラオケに行くくらいしか音楽に縁がなかった自分ですが、合唱の大曲からポピュラー音楽、日本の唱歌に至るまで幅広い作品を歌で表現することに魅力を感じています。

また、先生方の真摯で熱心なご指導を受け、本物の音楽づくりに向き合えることは、大変光栄な思いです。

飲み会、カラオケ、ゴルフ大好き人間です。演奏会や専門委員の活動で合唱の楽しさを味わうも良し、合唱の経験談や四方山話を肴に酒を酌み交わすも良し、皆様と楽しく交流を深めていければと思っております。

書記 S 稲田 由美子



昨年度に続き書記を重任させていただきます稲田由美子です。団の運営に携わらせて頂く身として、活動が少しでもスムーズに行えるよう試行錯誤をしながら尽力して参りたいと思います。

団員の皆様が元気に楽しく歌えるよう、私も笑顔でいたいと思います(^ ^♪

どうぞよろしくお願いいたします。

書記 A 森川 倡子



書記2年目のもりかわまさこです。

やっと戻ってきた練習時間がより貴重なものに思っています。大勢の人が集まって歌える楽しみを満喫できるように、それを聞いた方に楽しんでもらえるように、少しでも尽力できればと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

会計 S 村松 美恵



2023 年度会計を務めることになりました村松です。

勤め先で経理担当に精算請求の不備を指摘され続けて数十年。その経験が役に立つ時が、ついにやって来たと思うと感無量です。

私は効率化・省力化をテーマにしつつ、責任感と正確さを大切に、皆さんの信頼に応えられるよう努めます。丁寧かつ迅速に対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

助けて頂くことが多々あるかと思いますが、合唱団の発展に向けて一緒に頑張ってお参りしましょう。

会計 B 藤波 明平



このたび会計担当になりました藤波です。

会計は全く担当したことがなく挨拶のイメージがわからないので今流行りの ChatGPT に聞いたところ「私は、正確性と透明性を大切にする会計処理を心がけ、業務効率の向上やビジネスの最適化の支援に努めます。また、上司や同僚、取引先とのコミュニケーションを大切に、信頼関係の構築に努めます。」という答えが返ってきました。

合唱団の会計に焼き直すと、合唱団内外のコミュニケーションを大切に、お金に関わる作業の簡素化を図ることと理解して同じく会計担当になられた村松さん、他の役員の方と相談しながら会計を担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

会計監査 S 冨田 陽子



昨年に引き続き会計監査を担当させていただきますソプラノの冨田です。

皆様からお預かりした大切な会費が、適切で的確な会計管理がなされているか、慎重かつ丁寧に監査をしてまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

会計監査 B 安川 喜久夫



今期の会計監査を仰せつかりました安川喜久夫(バス 19)です。

何箇所かの仕事を掛け持ちしながらにはなりますが、昨年度に引き続きお役目を果たしてまいる所存ですのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3年以上に及んだ COVID-19 禍も漸く終息し、私達合唱団の活動も元に戻りつつあることは何よりも喜ばしいことです。

この辛い経験を経て、四声のハーモニーの素晴らしさを今改めて実感しています。先生方のご指導によりこの響きの質を更に高め、皆さまと共に“GLORIA”の高みを目指しましょう！！

もちろん個人的には大好きなお酒やチーズの世界をもっともっと極めていくつもりです(笑)

演奏委員長 S 菊地 順子



何回目かの演奏委員長・ソプラノ PL をお引き受けいたしました。演奏委員長としてソプラノ PL として役割を果たしているか甚だ疑問ではありますが…どうぞよろしくお願ひいたします。

ようやくコロナの対応から解放されて縛りのない活動ができるようになりました。しかしコロナ以前に戻れるわけもなく with コロナで活動していかねばならない世の中となりました。しかし私達はあの苦しい時を乗り越えたからこそ、今歌えることを心から大事にできます。

皆様の演奏活動が益々充実したものになりますよう、努力してまいります。

今年度もよろしくお願ひいたします。

地区委員長 B 溝口 佳美



多くの地区委員の皆々様のご努力下、各練習会場では練習時間前の対応が自主的にやっています。各地区の地区委員の皆様に感謝申し上げます。

広報委員長 B 三留 修平



広報委員長を拝命して

広報委員長を拝命致しました、三留修平（みとめしゅうへい）です。入団4年目ですが、コロナ禍故まだまだ新人です。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年広報委員として活動し、業務の流れは理解して来ましたが、委員長となり過去の活動記録を見ますと、かなりの広報活動がコロナ休団期間中に休止となり、途切れそうな取組みも結構あることが分かりました。

本年度は、団の発展のために活動内容を広くPRし、新入団員の増加にも繋げられればと考えています。そのためにまず、広報業務の継続性ができるだけ確保することが挙げられます。具体的には各種媒体利用の継続/復活、ホームページやFacebook等の利活用を更に図ることを考えています。また、35周年記念誌編纂も皆様の協力を仰ぎながら進めたいと考えています。

経験豊富な渡邊悠子さん、新パワーとして水野照子さん、延與桂さんとの新旧4名体制で活動します。どうぞよろしくお願いいたします。

コミュニケーション委員長 A 柴田 巳奈子



今年度は復活をより強く感じられるようです。団の活動を皆様にお伝えできるよう Dialog の発行を充実していきたいと思っています。定演後の宴を再開できるかはまだ不透明ですが、歌談議に花を咲かせる時もそう遠くはないでしょう。引き続き委員長をお引き受けすることになりましたが、委員の方のご協力のもと頑張っていきたいと思っています。

宜しくお願い致します。



令和5年4月26日（水）玉川せせらぎホールにて開催

出席者71名委任状31名、計102名（団員総数118）で過半数を満たしたので、定刻の午後8時に総会を開始致しました。

訃報

昨年 12 月 3 日に世田谷区民合唱団の初代音楽監督でいらっしゃいました坂本博士先生がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

初代音楽監督坂本博士と世田谷区民合唱団

昨年 12 月 3 日、父坂本博士は永眠いたしました。長年にわたり、音楽一筋に精一杯生きることができた生涯でした。その節はご丁寧にお心遣いをいただきありがとうございました。



4 月 5 日の定練の際に、コミュニケーション委員の藤原利親さん、飯島就子さんより初代監督のお父様について、何か文章を書いてほしいとの依頼がありました。

私は、団が結成して 4 年目に、ヴォイス・トレーナーとして団の指導に当たったので結成当初のことはリアルタイムでは経験していませんが、父から当団のことはいろいろと聞いていたので、思い出すままに書かせていただきます。

父が音楽監督を引き受けた第 1 回目の定期演奏会は高田三郎作曲の「心の四季」をメインにしたプログラムで、その前座的な位置で、「世界の楽しい歌を集めて」と題した曲を数曲歌ったそうです。中でもフォスター・メドレーは、お客様には好評であったと聞いて

おります。

父は芸大を卒業して、オペラやテレビでブレイクする前の数年間、生計を立てるため大手銀行のコーラス部の指導や自由学園の講師を務めました。中でも自由学園のコーラス指導の話はよく耳にしました。

この学園は、音楽芸術に力を入れており、毎年の恒例行事として、ヘンデルの「メサイヤ」の全曲演奏に取り組んでいて、父は男子部の男声パート練習を任せられました。女子部は本棒の斎藤秀雄先生が指導されておりました。しかし、変声期を終

えたばかりの中学、高校生にとって「メサイヤ」はかなりハードルの高い作品であったようで、生徒たちはとっつきにくさを感じていました。そこで父は、発声の一環としてフォスターの歌を歌わせたところ、生徒たちの目の色が変わったそうです。「草競馬」という歌では、馬の蹄の音を舌を鳴らして表現する等のアレンジを加えて、音楽の楽しさを体感させた上で「メサイヤ」の練習に入ると、今まで出せなかった声も出てきたそうです。

そして、男子学生の強い要望で、「メサイヤ」の全曲公演の前座として、フォスター・メドレーをステージで歌ったそうです。学園長や、指揮者斎藤秀雄氏の反対を押し切った前座のステージは大変盛り上がり、公演の後男子学生たちは父の元に集まり、目に涙を浮かべてハグしあい、成功を喜んだそうです。

このような熱い体験があって、世田谷区民合唱団の第1回定期演奏会にもフォスター・メドレーをプログラムに入れたのではないのでしょうか。そういえばこの原稿を依頼してくださった藤原さんは、このコーナーで、アメリカ民謡の「権兵衛が種まく」のクラスの声をまかされたと聞いています。これはとても難しい役柄で、音色や表現力、さらにはお客様の笑いを取らなければならない重要な役です。藤原さんの個性を見抜いた父の目に狂いはなかったと思いました。

第1回定演に対して賛否両論あったようですが、その後、常任指揮者を務めた金川明裕先生が団を一つにまとめてくださり、父は安心して引退し、金川先生に音楽監督を任せることとなりました。私は金川先生の前、大変多くの事を学ばせていただき、今に至っております。

以上が初代音楽監督、坂本博士の一つの話です。

坂本 秀明

注：齋藤秀雄(1902年5月23日～1974年9月18日)享年72歳

日本のチェロ奏者、指揮者、音楽教育者として活躍した音楽家。小澤征爾ら世界的に活躍する音楽家を育てた。東京都出身 (Wikipedia より)

アルトパートに所属されていた故石川和子さんとソプラノパートに所属されていた故山澄秀子さんのご逝去をお知らせ致します。長く一緒に活動してきた仲間を見送るのは寂しいことです。心よりご冥福をお祈りいたします。

石川和子さん追悼文

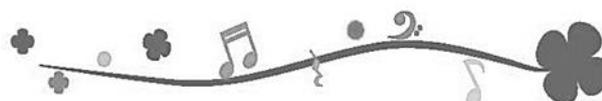
今年1月7日、代々木八幡駅から程近いカトリック聖アルフォンソ初台教会で石川和子さんの葬儀ミサが行われ、世田谷区民合唱団から神保委員長はじめ多くの団員が参列された。儀式は荘厳な大聖堂で厳かに進められ、故人を忍び私も心を込めて献花させて頂いた。ご主人の信雄さんは私と同じテナーで、よく隣で歌われていて、流石に90歳を超えて声量は衰えましたが、難しいテンポや音程も正確にしっかりと歌われていて我々男性の鏡である。

お二人は何時も仲良し夫婦と一緒に練習にされ、笑顔で我々に接してくれた。

掲載されたこの写真は、私の家内が成城ホールで開いた最後のリサイタルに来て頂いた時写された物で、「これから湯河原の別荘へ行くの」と、颯爽とリュックを背負いホールを後にされたご夫妻の姿が印象的であった。

あれから僅か一年余りで、あんなに元気であった奥様の和子さんが急逝され、ご主人の落胆は如何ばかりか計り知れません。お力落としの無いように祈るばかりである。

テノール 藤原 利親



山澄秀子さんを悼んで

ソプラノ 清水 優子

山澄さんが亡くなられたという突然のお知らせに私は言葉もなく、信じられない思いでいっぱいでした。同じ烏山地域のお仲間として入団当初から親しくさせて頂き、お世話にもなりました。当時、烏山地域には団員が 10 人近くいて皆、仲が良くまとまっており、練習の帰りはいつも一緒でした。

当時は 1 カ月毎に練習会場が変更していたので烏山での練習月の最終日には、「つぼ八」で懇親会をするのが常で、皆楽しみにしていました。山澄さんも必ず参加されて皆と交流している時は本当に楽しそうでした。他の地域の方たちからは烏山は仲がよいのねーと羨ましがられたものです。

創立当時の仲間がほとんどで年齢も近く、何かあると助け合い、私の夫が亡くなった時もみんなで駆けつけてくれました。新年会やランチ、お茶会もよくしました。山澄さんは国技館での「第九」にも毎年参加され、終了後は両国で皆で食事会をしたのもいい思い出です。

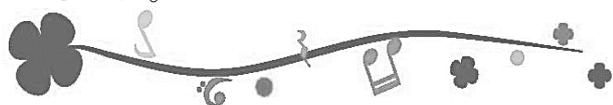
山澄さんは 20 代の若さでご主人を亡くされ、お父様に支えていただきながら二人のお子さまを立派に育てられ、本当に大変だったと思います。そのお父様を看取られ、今が一番幸せで充実していたはずなのに 75 歳という仲間内では一番若くてお元気だったのにこんなに早く、突然に逝ってしまうなんて誰も予想していませんでした。

合唱の練習は休みがちでしたが、退団したいと言ったことは一度もありませんでした。団に愛着があったのだと思います。コロナの感染拡大で会う機会は減っていましたが、時々メールや電話で話したり、何年か前に上北沢に引越されてからも永年住んでいた烏山が好きだからと言って買い物や整形外科への通院に自転車で良く来ていました。その都度、私の家の近くのつつじ園の前でお会いして団の資料をお届けしたり、お互いの近況を話し合ったり、また我が家でお茶会をしたりと交流をしてきました。美味しいからといっていつも珍しいものを届けて下さり、体調が悪そうな様子は全くなく、明るく時にはユーモアを交えて笑わせてくれたりもしました。

コロナの感染にはとても気を付けていて人混みの中には絶対行かないと昨年 10 月の烏山での定演を聴きに来るよう進めてもその気持ちは全くありませんでした。つつじが咲いたら見に来てねーと声をかけていたのにそれもできずに 3 月 6 日、突然天国へ旅立ってしまい、寂しくて、悲しくて、思い出すたび なぜ？ と問いかけています。

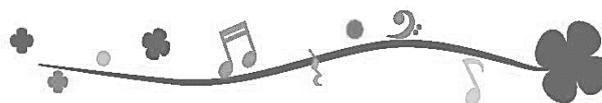
菅原さんと「お参りをして最後のお別れをしたい」と息子さんに連絡をとりましたが、「故人の意思によりご辞退を申し上げます」と丁寧なお返事を頂きました。山澄さんらしいなーと思いながらも、なかなか気持ちの整理がつかず、先日、我が家で山澄さんと交流のあった菅原さん、柴山さん（元団員）、私の 3 人で「山澄さんをしのぶ

会」を行い、写真を眺めながら思い出を語りあって、心からのご冥福をお祈りいたしました。



芦花公園 サンマルクにて新年会

2008年1月22日



訂正：前号 161 号の記事の中で坂本秀明先生のお名前の漢字を間違っ
て掲載してしまいました。大変失礼いたしました。申し訳ありませんでした。



編集後記

- ・今回は役員の皆様のご挨拶を掲載しました。
- ・練習会場での受付や定期演奏会に向けての準備等、役員を中心に各専門委員等多くの方々が団の運営に携わり、世田谷区民合唱団に愛着をもっていると感じています。
- ・私もコミュニケーション委員としてD i a l o gの発行充実で団に貢献したいと思っていますので、執筆のお願いに伺った時はご快諾よろしくお願いたします。

記 富野 隆司

